

記載例

炭素貯留効果の高い堆肥の水質保全に資する施用関係

施肥管理計画は、堆肥その他の使用する資材における窒素及びリン酸の各成分量の合計が、都道府県の施肥基準等を上回り、必要となる投入成分量を超えて過剰な施用となることが懸念される場合には、策定して証拠書類として保管してください。

(都道府県の施肥基準やエコファーマー導入指針(持続性の高い農業生産方式の導入に関する指針)における堆肥の使用の目安、その他の技術指針等の範囲内で施用が行われていれば策定する必要はありません。なお、施肥基準等については都道府県、市町村にお問い合わせください。)

施肥管理計画

○堆肥からの肥料成分量の計算

堆肥の種類	堆肥の成分含有率(現物%)		
	N 全窒素	P リン酸	K 加里
稲わら堆肥	0.42	0.20	0.45

堆肥の施用量 (kg/10a)	×	堆肥の成分含有率 (現物%)	×	肥効率※1 (%)	=	堆肥からの成分量(A) (kg/10a)
1,500	×	N 0.42	×	20	=	N 1.3
	×	P 0.20	×	100	=	P 3.0
	×	K 0.45	×	65	=	K 4.4

施用する堆肥の肥効率を入力して、堆肥施用による窒素(N)、リン酸(P)、加里(K)の成分量を算出してください。

※施用する堆肥の肥効情報や都道府県の施肥基準等で示されている肥効率を利用して下さい。

○堆肥の肥料成分を勘案した施肥計画

施用する堆肥の窒素(N)、リン酸(P)、加里(K)の成分含有率を記入してください。

堆肥施用後の作物名	必要とする投入成分量(kg/10a)※2		
	N 窒素	P リン酸	K 加里
レタス	20.0	15.0	15.0

堆肥を施用した後に栽培する作物名、堆肥施用後の作物において必要な投入成分量(堆肥を施用しない場合に施用している化学肥料、有機質肥料等の成分量の合計)を記載してください。

使用資材				計画			
資材名	資材に含まれる成分の割合(%)			使用量 (kg/10a)	成分量(kg/10a)※3		
	N	P	K		N	P	K
稲わら堆肥	(上記)	(上記)	(上記)	1,500	1.3	3.0	4.4
〇〇有機	9	5	5	150	13.5	7.5	7.5
〇〇化成	12	6	6	40	4.8	2.4	2.4
合計					19.6	12.9	14.3

堆肥を含む使用する資材の各成分量の合計を記載してください。

窒素、リン酸の成分量の合計が堆肥施用後の作物において必要とする投入成分量を上回らないように施肥を行ってください。

※1 堆肥の肥効率は、連用年数、堆肥の処理方法や副資材の種類、腐熟度の違い等によって異なるため、利用しようとする堆肥の肥効率等、肥効情報が示されている場合はそれに従うこと。

※2 必要とする投入成分量は、通常の栽培管理で必要とする投入成分量(堆肥を施用しない場合に施用している化学肥料、有機質肥料等の成分量の合計)を記載してください。

※3 堆肥を含む使用する資材の各成分量(窒素、リン酸)の合計が、必要とする投入成分量を超えないように施肥計画を策定してください。